

S
U
M
M
E
R

・巻頭言「Face to Face」	1	・今年度定年退職教員	5
宮城教育大学同窓会会長(学長) 村松 隆		高瀬 幸一	5
・特集「コロナ禍の中で問われる学びの本質とは」	2	應和 恵子	5
渡辺 尚	2	藤島 省太	6
加藤 琢也	2	佐藤 静	6
大沼 綾花	3	村上 由則	7
・同窓会事業・会計・予算	4	福井 恵子	7
令和元年度庶務・会計報告		・事務局だより	8
令和2年度事業計画・予算		・討 報	8
		・編集後記	8

vol.
32

発行人：宮城教育大学同窓会
 仙台市青葉区荒巻字青葉149 会長 村松 隆
 令和3年3月24日発行 印刷：株式会社宮城友栄社

山にありて

題字・加藤豊仍名誉教授



Face to Face

宮城教育大学同窓会会長(学長)

村松 隆

二〇二〇年度は、新型コロナウイルスに振り回されるというこれまで経験したことのない一年となりましたが、同窓生の皆様におかれましては御身お変わりなくお過ごしでいらっしやいましたでしょうか。

宮城教育大学も前期は、急遽オンライン授業となり、キャンパスに学生の姿はありませんでした。学生不在のキャンパスは実に淋しく、本学名誉教授の中森孜郎先生が「学校は校舎とイコールではない。子どもが校舎に入り教育が行われたとき、学校となる」とおっしゃっておられたことを思い起こしました。前期の宮城教育大学は大学ではなかったのです。おかげさまですべてではないにしても後期は対面授業を再開する

ことができました。東京の私大などでは、オンライン授業のままという大学も少なくなく、学生が心身に変調を来たし、「自分は何者なのか？」というアイデンティティへの疑問や大きな不安、孤立感を深めていると聞きます。そのような中、本学ではこれまで大きな支障等無く対面授業を実施できたことに、教職員への感謝の念を深く抱く次第でございます。そして改めて、教育現場におけるFace to Faceの重要性を強く認識いたしました。

皆様も、日々感染対策で大変なご苦労を重ねておられることと拝察いたします。見えないウイルスへの対応はとても難しく、きりがなく、精神的な負担も大きいことと存じますが、巨大クラスターなどが発生していないことは皆様の大変なご努力の賜物と拝察いたします。日々のご尽力に心より敬意を表します。

イベントも会合も次々中止になりました二〇二〇年度でしたが、また皆様とディスタンスを気にすることなく談笑できます折を切に待ち望む次第です。

特集

コロナ禍の中で 問われる 学びの本質とは

未曾有のコロナ禍による約3か月の休校、そして、例年より2か月遅れでスタートした令和2年度。その中で進められる「新学習指導要領実施」「学校の新しい生活様式」「GIGAスクール構想」「新大学入学共通テスト実施」「35人以下学級」などの様々な教育現場での変革…。特に、学習のオンライン化・リモート化は多方面に急激に拡大し、学びのかたちが大きく変わった。このような状況下だからこそ、立ち止まって教育の不易と流行を見定める必要がある。今、変えるべきことは何か、変わらず大切にしたい学びの本質とは何か、大学教員、学校教員、大学生の三者からいただいた寄稿の中に見出したい。

情報活用能力育成機構の黎明



宮城教育大学
教育学部理科教育講座
准教授
渡辺 尚

情報活用能力育成機構は、情報基盤推進室と情報教育研究推進室の二つの組織をもって産声を上げました。私は理科教育が専門ですが「情報教育研究推進室」の室長を拝命しております。

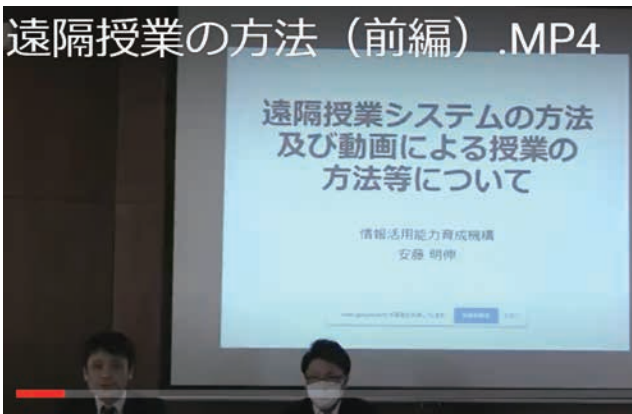
コロナ禍でスタートした学生のキャンパスライフは青葉山から消

え、モニター越しの講義が五月連休明けから開始しました。通常の「対面」講義を一部再開したのは夏以降です。理科の場合は実験や実習を伴った講義が多数ラインナップされており、それが本学の強みとされてきましたが、今は三密回避に悩まされながら実施しております。新入生と附属中実習見学で九月に初めての対面を果たし、当たり前だった息づかいを感じながらの講義の良さを再認識しました。初めての顔合わせでしたが、

モニター越しでは会っており、どこか懐かしく待ちに待った出会いでした。

科学技術国家を自負していた本国はICT活用の脆弱性を露呈しながら、急激に新しい生活様式に変革している最中です。OECDは二〇二〇年版「図表でみる教育」を発行しましたが、日本の初等教育から高等教育に対する公的支出総額の政府総支出比率（二〇一七年）は、世界平均に大きく届かず、国民が抱く実感と合致しません。

多忙化で問題になっている教師



教員研修の様子

側が新しい教育情報ツールを会得しながら、効果的な教育について検証する暇もなく勇往邁進してきます。そのような状況であればこそ新生・情報活用能力育成機構が本学で活躍する皆さんの一助となることを願わずにはおれません。



コミュニティ(ゲーグルクラスルームから)での活動の様子

「改」と「解」



小学校教育養成課程
理系コース
平成六年度卒
加藤 琢也

今年度を漢字一文字で表すならば、個人的には「改」である。



休校期間中にも異学年で外遊び

今年度当初、まず学校に求められたことは、「学びを止めない」ことであったが、教頭としては職員を含めての感染防止対策が命題であった。特に本校は、在籍児童が一、〇〇〇名を超えるため、全において、通常通りの生活・活動を改めていく必要があった。様々なことを考え、改めたことがあったが、時には管理職と学年主任で熟議して決めた方針を、市内統一方針として変えざるを得ないことが続き、職員からは「朝令暮改」の連続ではやりきれないと愚痴がこぼれたこともあった。

そのような時、教頭として大切だと感じたのは、チームを納得



学級が決まっていない中で、毎日の下校指導

「解」に導くということである。判断の根拠や理由を説明することはもちろん、感謝やねぎらいといった感情面を支える言葉も必要であった。時には、意図的に自己の感情を表現することで職員の不満を代弁し、チームとしての方向性を揃えることもあった。「改」の連続を通して「解」を模索した一年間であった。

「解」のない課題に接し、協働的・対話的に思考して実現していくという経験は、これからの教育の本質そのものであったように思う。コロナ禍が教えてくれたことを、ポストコロナ時代の教育につないでいかなければならない。

(岩沼市立岩沼西小学校勤務)

オンライン授業を受けて



初等教育教員養成課程
子ども文化コース二年

大沼 綾花

今年度の大学生活では、コロナ禍によって授業形式に大きな変化がありました。多くの授業が対面型からオンライン型となり、最初は想像がつかず不安もありましたが、実際に授業を受けて、オンライン授業は思っていたよりも受けやすいなと感じました。

まず、「時間を有効活用できる」ことが良い点だと思えます。通学・移動時間がかからないため、自由な時間を増やすことができ、オンデマンド型授業においては、自分の好きな時間に受けることができるため、一日の計画に柔軟性を持たせることができました。

また、「教授とのコンタクトのとりやすさ」も利点であると思えます。ビデオ会議ツールのチャット機能で気軽にコメントや質問を送ることができ、より授業の理解



オンライン授業を受ける様子

を深めることにつながりました。しかし、対話的な部分での課題も感じました。教授や友人と直接的な対話ができないことや、グループワークで相手の反応が見えないことからのやりとりのしづらさがありました。対話的学習は自分以外の考えに触れる場として重要であると思えます。これからの学習では、対話的学習を広げていくために、リモート環境や教材面においての工夫を行っていく必要があると考えます。

今回こうした授業を受けてみて、オンライン授業の可能性を感じました。今後、この状況がどうなるかは分かりませんが、学習の仕方を工夫し、より充実した学びを求めていきたいと思えます。

同窓会事業・会計・予算

令和元年度 庶務報告

- (1)総会開催 令和元年8月10日 宮城教育大学 (2)理事会開催 令和元年8月10日 宮城教育大学
 (3)総会実行委員会設立 昭和63年度、平成10年度、平成20年度卒業生担当
 (4)会報「山にありて」31号発行 会報送付にあたっては、平成27年度総会での決定に基づき、会費未納者に対しては隔年送付にしています。
 (5)学生自主活動支援 学生の自主活動支援金として、1回目7団体、2回目5団体、合わせて12団体に合計494,340円を支援しました。

令和元年度 会計報告

単位 (円)

- (1)会計期間 平成31年4月1日から令和2年3月31日 (3)繰越金 次年度繰越金 5,330,427
 (2)収支概況 収入総額 8,659,735 (4)財産状況 (令和2年3月31日現在額) 現金・預金合計 5,330,427
 支出総額 8,659,735 現金 34,802
 差引残額 0 預金 3,127,625 (ゆうちょ銀行 普通預金)
 2,168,000 (ゆうちょ銀行 振込用口座)

(5)補足

- *会費収入について、平成30年度決算額399名(在学生333、卒業生66)から納入があったのに対し、令和元年度は389名(在学生320、卒業生69)から納入があり、前年度比232,000円減となりました。
 *平成29年度同窓会総会での決定に基づき、平成29年度9月より、同窓会業務の一部を宮城教育大学学生課に委託しています。
 *卒業記念品としてクリアファイル(5色)を作成し、令和2年3月の学位記授与式にて学部卒業生および大学院修士に贈呈しました。

1. 収入の部

項目	令和元年度予算額	令和元年度決算額	比較増減額(△減)	備考
1. 前年度繰越金	1,547,714	5,547,714	4,000,000	積立金を繰越金に組入(4,000,000)
2. 会費	2,400,000	3,112,000	712,000	389名(在学生320名、卒業生69名)
3. 利子	30	21	△9	
4. 雑収入	0	0	0	
合 計	3,947,744	8,659,735	4,711,991	

2. 支出の部

項目	令和元年度予算額	令和元年度決算額	比較増減額(△減)	備考
1. 事務費	45,000	39,799	△5,201	
(1) 事務費	15,000	5,000	△10,000	
(2) 通信費	25,000	30,879	5,879	
(3) 人件費	0	0	0	
(4) 会議費	5,000	3,920	△1,080	
2. 事業費	3,355,000	3,139,384	△215,616	
(1) 総会費	100,000	48,068	△51,932	講師謝礼、ホームカミングデー支援
(2) 会報発行	700,000	532,710	△167,290	山にありて31号13,000部
(3) 会員情報管理費	1,250,000	1,286,306	36,306	データ管理、会報送付
(4) 学生活動援助	500,000	494,340	△5,660	2回、計12件
(5) 広報費	145,000	117,960	△27,040	新入生用入会案内、卒業記念品
(6) 事務局業務委託費	660,000	660,000	0	
3. 雑費	0	0	0	
4. 予備費	497,744	120,125	△377,619	首里城火災支援、丸森学習支援
5. 寄付	50,000	30,000	△20,000	
(1) 大学業務等支援寄付金	50,000	30,000	△20,000	記事
6. 次年度繰越金	0	5,330,427	5,330,427	
合 計	3,947,744	8,659,735	4,711,991	

3. 積立金の部

項目	令和元年度予算額	令和元年度決算額	比較増減額(△減)	備考
1. 積立金	4,000,000	0	△4,000,000	
(1) 前年度までの積立	4,000,000	0	△4,000,000	
(2) 当該年度積立	0	0	0	

令和2年度 事業計画

- (1)総会開催 令和2年8月8日 宮城教育大学(メール審議) (2)理事会開催 令和2年5月～総会直前 宮城教育大学(メール審議)
 (3)総会実行委員会設立 平成元年度、平成11年度、平成21年度卒業生担当
 (4)会報「山にありて」32号発行 (5)学生自主活動支援

令和2年度 予算

単位 (円)

- (1)会計期間 令和2年4月1日から令和3年3月31日
 (2)収支概況 収入総額 7,730,457
 支出総額 3,835,000
 差引残額 3,895,457

*予備費を計上する目的

予算執行の基本方針は当該年度の収入の範囲で活動(支出)を計画します。但し、当該年度中に予想を超える事態が発生(例えば震災)した場合に備えて「予備費」と計上します。10万円を超える予備費の執行に当たっては臨時理事会を開催して決着します。

1. 収入の部

項目	令和元年度決算額	令和2年度予算額	比較増減額(△減)	備考
1. 前年度繰越金	5,547,714	5,330,427	△217,287	
2. 会費	3,112,000	2,400,000	△712,000	389名(在学生320名、卒業生69名)
3. 利子	21	30	9	
4. 雑収入	0	0	0	
合 計	8,659,735	7,730,457	△929,278	

2. 支出の部

項目	令和元年度決算額	令和2年度予算額	比較増減額(△減)	備考
1. 事務費	39,799	45,000	5,201	
(1) 事務費	5,000	10,000	5,000	
(2) 通信費	30,879	30,000	△879	
(3) 人件費	0	0	0	
(4) 会議費	3,920	5,000	1,080	
2. 事業費	3,139,384	2,890,000	△249,384	
(1) 総会費	48,068	0	△48,068	
(2) 会報発行	532,710	500,000	△32,710	山にありて32号11,800部
(3) 会員情報管理費	1,286,306	1,300,000	13,694	データ管理、会報送付
(4) 学生活動援助	494,340	300,000	△194,340	
(5) 広報費	117,960	130,000	12,040	新入生用入会案内、卒業記念品
(6) 事務局業務委託費	660,000	660,000	0	55,000×12ヶ月
3. 雑費	0	0	0	
4. 予備費	120,125	400,000	279,875	
5. 寄付	30,000	500,000	470,000	
(1) 大学業務等支援寄付金	30,000	0	△30,000	
(2) 学生支援寄付金	0	500,000	500,000	新型コロナウイルスに係る支援として大学に寄附
6. 次年度繰越金	5,330,427	0	△5,330,427	
合 計	8,659,735	3,835,000	△4,824,735	

今年度定年退職教員

この春、お世話になった七名の先生方が定年を迎えられ
ご退職されます。

原稿をいただいた六名の先生方の在学期間中の思い出や、
宮城教育大学学生に対する思いを掲載しました。

災厄の年



数学教育講座
教授
高瀬 幸一

災厄の年である。大学は学問の府である。大学生は学問の一端に触れ、それに新たなページを加える立場となれば即ち研究者となり、それを人に伝える立場となれば即ち教師となる。であるから大学の本質は学問的専門性にあつて、それを疎か

にする者は大学人の名に値しない。「学際」あるいは「横の繋がり」という言葉を耳にする。学問的専門性とは所詮蛸壺であり、それは専門バカに通じるとの言説を弄する者もある。愚論である。蛸壺的専門バカ、大いに結構ではないか。立派に蛸壺を掘った者のみが隣の蛸壺の価値を理解し、その苦勞の人に語ることができるのである。蛸壺一本まともに掘れず専門バカにすらかなれない者は、かつて大学紛争時代の団交に際して言われた如く、バカ専門と呼ぶが相応しかろう。学問的専門性があればこそ、それを横につなぐことができるの

である。学問的専門性を蔑ろにしておいて、学際よ横の繋がりよと言いつてるのは、虚ろな空論にすぎぬ。教員養成に於いても、各教科の専門性を身に付けておればこそ現場を支える一本の柱となるのである。各教科の専門性を身に付けた者が集まればこそ互いに教えあう学びあうことができるのである。そのような専門性無くしては、現場を支える柱にもなれず、教えあうことも学びあうこともできぬ、木偶の如き者となるであろう。とは言え、時と共に移ろう万象の中にあつて、大学もまたその姿

を変えるのだろうか。社会は精神生活に於ける不易にして不動の原点たる大学を失うのであろうか。いずれにしても賽は投げられたのである。願わくは出る目のよからんことを。

宮教大でオペラ!?



音楽教育講座
教授
應和 恵子

平成九年十月、専門であるオペラが出来ることに心躍らせて着任しました。ただゼロ免課程とはいえず想通り、教育学部生は音大生ではないので、その歌唱力には限界があり、オペラを歌える者は非常に少ないのが問題でした。しかし、本番までになんとか見せられる形にしてしまうのが、宮教大生の不思議なところですよ。それに、音楽・美術両講座の協力体制は素晴らしいもので、各教員の研究費を削り、非常勤枠を確保し、教育学部で出来るとは思わ



平成15年度、ヴェルディ作曲「仮面舞踏会」より

なかつたバックアップ体制を取ってくださいました。

やがて受講生の中から舞台関係に進路を考える者も出てきて、現在も様々な地域で舞台スタッフのプロとして活躍しています。

残念ながら平成十九年からゼロ免課程が廃止になったので、最近「声楽アンサンブル」という授業で重唱に大まかな演技をつけて発表してきました。文化祭のようなレヴェルですが受講者は大いに楽しんでいようようです。

お陰様で宮教大での二十三年間は充実した実りあるものとなりました。皆様、ご指導・ご協力頂き、ありがとうございます。

インクルーシブ教育のパイオニア



特別支援教育講座
教授
藤島 省太

一九九一年四月に宮教大に赴任以来、本年度で丁度三十年を迎え、退職の運びとなりました。

赴任当初は、まだ三十五歳という若輩で、諸先生方から「宮教大で一番若い教員」とよくからかわれたものです。「光陰矢の如し」の譬え通り、あつという間に時が過ぎ退職の日を迎える感があります。

赴任時の教授会は、開学当初からの錚々たる先生方が侃侃諤諤の議論を深夜まで交わし、大学の自治や学問の自由といった気風も色濃く残っていました。

しかし、その後の法人化によってそうした気風も影を潜め、また

東日本大震災やコロナ禍など未曾有の困難に直面するなど、大学を取り巻く環境も大きく変貌した観があります。

私にとつて嬉しいことは、本学を巣立った同窓生（初期の方々）は早五十路を過ぎました）が、各地の特別支援教育の中核を担って活躍していることです。そうした同窓生の学生時代の支えもあって、宮教大のしょうがい学生支援は、お陰様で全国大学ランキング上位の常連ともなりました。

これもひとえに皆様のご協力・ご支援の賜物と思っています。本



準 PEPNet-Japan 賞受賞

学が今後もインクルーシブ教育のパイオニアたらんことを祈念するとともに、長い間の感謝と御礼を申し上げます。ありがとうございます。

宮城教育大学での二十一年



大学院
教授
佐藤 静

平成十二年四月に宮城教育大学の教員として採用されてから令和三年三月まで、二十一年間にわたってお世話になりました。お力添えをいただいた多くの皆様に心から感謝申し上げます。

本学に奉職する前は宮城県と仙台市の職員として福祉や精神保健領域の仕事に取り組みましたが、元々が心理学徒であり、本学では主に臨床心理学を基礎とする教育支援に関する教育・研究に従事しました。併せて仙台市教育委員会では教育相談やスクールカウンセリングに関わる種々の仕事をお手伝いする機会を与えていただきま

した。教育大学に勤める教員として、ほんとうに得難い機会を与えていただいたことに感謝しております。

平成二十三年三月に発生した東日本大震災はやはり忘れがたい経験です。それ以来、心理の立場から防災や心のケアの諸課題にも取り組んできたことが、昨今の新型コロナウイルス感染症などへの危機対応にも役立つかもしれません。大学での仕事は一区切りつきませんが、引き続き与えられた立場で教育や心理の問題に向き合っていければと考えているところです。

宮教大に感謝



大学院
教授
職教
村上 由則

「首席中退」と称して博士課程を途中で辞め、地元岩手の養護学校教員として十二年間勤めました。どういう訳か、一九九四年四月に、好きではない…仙台に呼び戻される形で、当時の障害児教育講座・

特殊教育特別専攻科担当として赴任しました。盛岡からの通勤が条件でした（我儘ですね…）。

本学でどんな仕事をしたかな…？、管理棟のエレベーター設置を教授会で強く訴えたことくらいでしょう。他は、なんとなく周囲からの圧力で取り組み、皆さんの支援をいただくことで、続けることができました。

この間、障害児教育は特別支援教育へとかわり、一般の学校そして大学においても、大切なものであると、認識が変貌しました。かつて、大学の「お荷物」と言われ「特殊な人の集まり」とされた講座・課程も、学内・県内で正しく認識されるようになりました。その現場に立ち会えたことは貴重な体験であり、その機会を与えてくれた本学には感謝しています。

教育と教員養成は、世の中を映す鏡だと思えます。変化の激しい時代においても、宮城教育大学は独自の存在意義を持ち続けるでしょうし、ミッションに期待するものです。

大変お世話になりました。ありがとうございました。

退職にあたり



機構育成能力活用情報
基盤推進室
助手
福井 恵子

定年の挨拶を書く時がきたんだなと感慨深い思いです。

毎日毎日を夢中で過ごし、曖昧になっっている遠い記憶を辿ると、どうしても情報に関わってからのものになっしまいました。

私が現在までの仕事として、情報に携わるようになったのは、平成三（一九九一）年。

平成四年から第一期システムの運用が始まり、平成七年に情報処理センター棟が建ち、新しい建物に入った時の期待感は今も忘れません。

今、時代はクラウドですが、クラウドという雲の向こうにあるシステムと違い、この頃は、サーバーが側にあり、ネットワークケーブルでつながり、ここをケーブルが通るんだと興味津々ケーブルを触ったものでした。



旧情報処理センター棟

近年、学生が「生活系の授業で学内探検しています」と、訪ねてきます。この情報処理センター棟ができたのが平成七年、その時からずっといるんですよ、というところ、一斉に「え〜〜！」と声を上げました。

これだけ長い間働けた大学には、感謝をしつつ、さらなる発展を心より願っております。

長い間、ありがとうございました。

事務局だより

二〇二〇年八月の同窓会総会をもって事務局長を退任いたしました。二〇一三年八月に事務局長を拝命して以来七年間、至らぬ点多々あったこと存じますがご容赦いただけましたら幸いです。会長はじめ理事会の諸先生方、事務局の皆様、そして同窓会会員の皆様方、温かいご支援を賜り誠にありがとうございました。

旧事務局長 越中 康治
(平成十二年度卒)

この度、事務局長を拝命いたしました。私は一九九四年入学、二〇〇一年に大学院を修了し、二〇〇二年度から北海道日高で中学校に十二年、小学校に五年勤め、二〇一九年四月、母校に戻ってまいりました。地元宮城(栗原)を離れ、同窓会とも疎遠になつておりましたが、これを機会に微力ながら尽力いたす所存です。これからどうぞよろしく願います。

新事務局長 沼倉 学
(平成九年度卒)

今年度の同窓会総会は、黒川浩氏(平成元年度卒第二十二回生)を実行委員長として、メール審議という形で開催いたしました。ご多忙中ご尽力くださり深く感謝申し上げます。

また、同窓会では、新型コロナウイルス感染症の影響で経済的に困窮している学生への支援として、宮城教育大学に寄附金を贈呈いたしました。今後も学生への支援を続けていきたいと考えております。

最後に、同窓会活動は皆様からの会費によって成り立っております。未納の皆様におかれましては、このことをご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。末筆ながら、同窓生の皆様の日頃のご支援に感謝申し上げますとともに、皆様のご安全・ご健康を心よりお祈り申し上げます。

同窓会費納入先

郵便振替

022402-34558

宮城教育大学同窓会

同窓会費：八、〇〇〇円(終身会費)

恩師訃報

鈴木 弘志先生 (本学名誉教授
木質材料学)

小住 兼弘先生 (本学名誉教授
生糸教育機械工学)

が、ご逝去なされました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

令和二年 十月 三日
令和二年 十月二十三日

法として、今号の同窓会誌が皆様に届けば幸いに存じます。

今号より、同窓会誌はWebでの閲覧となりました。より多くの方にご覧いただけるよう、ご友人に紹介いただけたら幸いです。次号もよろしく願います。

編集長 早坂 美幸
(仙台市泉図書館勤務)

【編集委員】

橋本 俊一 (昭和 48 年度卒)
末永 精悦 (昭和 53 年度卒)
鈴木 朝二 (昭和 53 年度卒)
平間 正信 (昭和 62 年度卒)
浅野 郁子 (昭和 62 年度卒)
加藤 良樹 (平成 6 年度卒)
堀之内 優樹 (平成 8 年度卒)
野中 映里 (平成 10 年度卒)
近藤 ゆき (平成 13 年度卒)
早坂 美幸 (平成 15 年度卒)

編集後記

皆様のご協力により、32号を発行することができました。コロナ禍の中で、大学も前期はオンラインでの講義になり、同窓会総会もできず、本当に同窓会誌を発行できるのだろうかという不安の中で、編集長という責任の重い役割を受け継ぎました。そのような不安を断ち切ってくださったのは、お忙しい中にも関わらず、原稿依頼を快く引き受け、励ましの言葉を掛けてくださった執筆者の皆様が存在でした。

今号の特集ではコロナ禍における大学、教育現場、学生とそれぞれの現状を率直にお書きいただきました。人と人とが触れ合うことが難しいときだからこそ、互いの思いを知る機会がより大切になると感じた次第です。つながりを持つための一つの方

同窓会誌が Web ページに移行します

第32号から同窓会誌はWebページの閲覧になります。宮城教育大学Webページのメニューからご覧ください。

パスワードは、「yamaniarite16」(やまにありて16)です。

同窓会ならびに会報についてのお問い合わせ Eメール: alumni@adm.miyakyo-u.ac.jp